

重点施策9 地域ぐるみで取り組む青少年補導の充実強化

【施策方針】

情報化・国際化・少子化、家庭教育の弱体化など、激動する社会の変化に伴い、人と人との連帯意識の希薄化、価値観の多様化、子どもたちの体験不足などが年々深刻化している。

こうした青少年を取り巻く環境の変化が、青少年の初発型非行を誘発する大きな要因ともなっている。

こうした状況のもと、次世代を担う青少年が心身ともに健やかに成長することを願い、青少年の健全育成と非行防止のために、関係機関と連携し、地道な活動を展開していく。その際、青少年センターが「情報収集・発信センター」としての機能を一層発揮し、学校・警察・関係団体と情報交換を緊密にして、補導活動を行う。

また、補導活動の一層の充実及び青少年をめぐる環境点検と有害環境の浄化に努めるとともに、特にネット犯罪防止に向けての補導員自身の研鑽にも努める。

【実施状況】

(1) 主な施策・事業

- ① 急増するネット犯罪への研修を深め、補導活動・相談活動の充実に努める。
- ② 環境浄化活動・防犯相談所活動の充実に努める。
- ③ 補導員研修会等を開催し、補導員相互の理解と一層の研鑽に努める。

(2) 施策・事業の実施状況

① 補導活動の充実

社会の変化に対応し、スマホやパソコンのネット犯罪、カラオケ、ゲームセンター、喫煙、薬物乱用等に留意し実態把握に努めるとともに、不安定な心理の青少年に「愛の声かけ」を中心に、適切な助言アドバイスをを行いながら支援・援助活動を行った。

市内12小学校区に12支部を擁する補導員会では、市内小中高等学校教職員補導員も含め、182名の会員が地区補導・中央補導・地区別特別補導（※輪抜けや夜市、花火大会など）など、147回の補導活動に延べ692人の補導員が参加し、地区の実態に応じた健全育成活動、危険箇所の点検等を展開した。

② 環境浄化活動・相談活動の充実

青少年のためのより良い環境づくり、地域ぐるみの点検、実態調査などの活動を促進し、不良・有害環境の整備、浄化を図った。

「学校警察連絡協議会（学警連）」と防犯協会等が連携し、市内全域に27の防犯相談所を設置し、悩みをかかえる子どもたちの発見と支援に取り組む相談活動を展開しており、青少年センターでも、来所または電話による相談に応じている。

令和5年度は、来所相談3件と電話相談1件であった。必要な助言や指導援助を行い問

題解決に当たった。今後も関係機関との連携を密にして、積極的に対応するよう心がけていきたい。

③ 補導員研修会の開催

補導員の研修・交流の場として、市補導員研修会や南予ブロック補導員研修大会（大洲市）、先進地視察研修（高知市少年補導センター）など各種研修を実施した。

コロナの影響を受け、年度当初の定期総会は書面開催となってしまったが、役員会及び地区長会の開催（年6回）や各地区特別補導（夏季・冬季）、中央補導の実施により、補導員会相互及びセンターとの連携・情報共有に努め、補導員個々の青少年の健全育成・非行防止の意識向上に取り組むことができた。

【事務事業点検評価委員意見】

- 八幡浜市の「情報収集・発信センター」として長期にわたり青少年センターが果たしてきた功績は計り知れない。また、学校警察連絡協議会、防犯協会、各地域の防犯相談所、市青少年補導員会など、多くの団体が連携した八幡浜市ならではの体制と子どもに対する配慮は、子どもが社会人になってからも脈々と受け継がれており、それが現在の子どもたちの健全育成にも生きている。継続することの意義を改めて感じることができる。教育委員会には、青少年センターの活動が真に青少年の健やかな成長と非行防止に資するよう、今後も運営についての補助や助言を行い、充実した活動となるよう支援していただきたい。
- 青少年センターは、児童生徒の健全育成の総合的な活動拠点として、補導活動や相談活動、学校・警察・関係団体との連携強化、情報交換等を柱に各種事業に取り組んでいる。補導活動については、市補導員会による各地区特別補導を精力的に実施するとともに、定期的に教職員やPTA等とも連携しながら中央補導を行い、青少年非行の未然防止に努めている。相談活動については、防犯相談所を設置し、悩みを抱える子どもたちの発見と支援に取り組む相談活動を展開しており、青少年センターでも来所または電話による相談に応じている。また、近年の社会情勢を背景に年々増加する相談に的確に対応できる専門知識を習得しようと努めている。今後も関係機関との連携を密にして、積極的に対応するよう心掛けていただきたい。
- 八幡浜市では、他市町と比較して青少年による問題行動が格段に少ないという状況が長年続いている。これはひとえに、管理職や生徒指導主事が中心となり各小中学校及び高等学校での確かな健全育成活動が推進されていることと、保護者や地域を巻き込んだ八幡浜市独自の三層の情報環流方式が機能していることの証であると推察する。補導員の研修体制も構築されており、青少年のためのより良い環境づくり、地域ぐるみの点検、実態調査などの活動が充実している。
- 現代社会は急激に変化する情報化社会であり、青少年の問題行動の多くはネット環境を介して発生したり、大人の目の届かないネット世界で生じたりしている。しかも、ネット社会は青少年犯罪の広域化も生み出しており、容易に取り組める状況ではなくなりつつある。ネ

ットを介したトラブルの回避やネット犯罪防止を最重点課題として捉え、八幡浜警察署生活安全課など関係機関との連携を深めながら、補導員の更なる意識向上に取り組んでいただきたい。また、今後も学校・補導員会・防犯協会・警察署生活安全課などとの連携を一層密にしながら、情報の収集など、より良い環境づくりに邁進していただきたい。

【自己評価】

- 青少年センターが「情報収集・発信センター」としての機能を発揮し、学校・警察・関係団体と情報交換を緊密にして補導活動を行った。補導員の方々が市青少年補導員会活動方針に基づき、奉仕の精神をベースにした青少年の健全育成や非行防止活動にしっかり取り組むことができた。毎年度7月初旬に、青少年センター運営審議会を開催し本市における青少年の現状、健全育成・非行防止のための具体的な活動について報告しているので、引き続き、審議会を構成する団体に向けた情報提供に努めたい。
- 補導員会研修部を中心に、先進地視察など補導員の研修・交流の場を企画した。新型コロナウイルス感染症の影響で中止になっていた先進地視察研修も4年ぶりに実施し、高知市少年補導センターを訪問して、有意義な研修の場を設けることができた。次年度以降、引き続き学校・防犯協会・警察生活安全課などとの連携を一層密にしながら情報を共有し、青少年のためのより良い環境づくりと補導員の更なる資質向上に取り組むたい。特に、補導員のインターネット(SNS)に起因するトラブル等に関する研修会等への参加を促し、自己研鑽に努めたい。
- 令和5年度は、一般補導員及び教職員補導員182名が補導活動に尽力している。夜間補導では子どもたちに出会うこと自体が少ないが、今後も青少年の健全育成・非行防止という原点を大切に、地道な活動の継続・発展を目指していきたい。また、毎月開催している学校警察連絡協議会での情報共有に努め、青少年の健全育成に向けて早期対応が図れるように今後も努めていきたい。
- 青少年を取り巻くインターネット利用環境が一層多様化する中で、SNSに起因する事犯の被害児童数は近年増加傾向にあり、子どもの犯罪被害は深刻な状況にある。一方で、悩みを抱える子どもたちの発見と支援に取り組む相談活動を展開していく中、問題の深刻化を未然に防ぐ観点から、子どもたちにとって身近なSNSを活用した相談体制のあり方について、当市の実情を踏まえて検討していきたい。